

10

2011 OCTOBER

広報

なみえ



- 2 町民の皆さまへ
- 3 がんばれ！なみえ
- 4 情報ぴっくあっぷ
- 9 浪江のこころ通信
- 20 連絡先一覧

大堀幼稚園
「なかよしの会」

Proud!
愛日本大国民の誇りを支えよう
Japan



浪江小・浪江中スタート

8月25日、浪江小学校・浪江中学校合同開校式が、浪江中学校体育館（旧針道小学校）で行われました。
浪江小28名、浪江中33名の児童生徒が出席し、新しい学校生活をスタートさせました。



大堀幼稚園



苅野幼稚園



浪江町児童館

元気な笑顔集まる

9月10日、二本松市市民交流センターで大堀幼稚園の修了証書を手渡す会「なかよしの会」が開催されました。卒園児14名と年少組8名が参加し、園長先生から一人ひとりに修了証書が手渡されました。子どもたちは、友だちとの久しぶりの再会に、まぶしい笑顔を見せていました。
また、8月27日には、苅野幼稚園と浪江町児童館でも、修了証書が手渡されました。

ふるさとの味

9月19日、桑折駅前仮設住宅（桑折町）集会所で、「なみえ焼そば」が無料で提供されました。
福島県中華飲食業生活衛生同業組合主催によるもので、浪江支部（支部長 芹川輝男さん）の皆さんが集まり開催され、ふるさとの味「なみえ焼そば」を求める多くの方々にぎわいました。
このほか、10月2日に本宮市、10月26日に二本松市日山パークゴルフ場で無料提供されます。



ありがとうございました

宮崎県 繋がるてとてプロジェクト（代表 黒木彰子さん）から東日本大震災復興支援チャリティーイベントの収益金による義援金と応援メッセージが届けられました。
ありがとうございました。

浪江町への義援金
9月15日現在、564件 2億7,519万6,123円の義援金が寄せられています。
このうち、1億6,600万円が各世帯へ配分されています。
皆さまの温かいご支援、ありがとうございます。

町民の皆さまへ

町の復旧・復興に向けて

浪江町長 馬場 有

大震災より半年経過いたしました。今もって皆さまには、難儀な日々の生活を送っていると感じます。何とぞ、心折れることなく、帰町できるまで強い信念をお持ちくださるようお願いいたします。

さて、町では、今後の復旧・復興に向けた取り組みとして、7月末から町職員のワーキンググループを開催し、検討作業を行っております。その後、町民との協働による（有識者を含む）浪江町復興検討委員会（仮称）を設置し、年内には復旧・復興ビジョン素案を示したいと思っております。そこで、現在町の最優先課題として、放射能の汚染及び除染・除去について、国・県に対し、汚染マップ等の情報を公開すること、

効果的除染技術の提供を強く求めております。帰還できるか、できないかはその除染にかかっているからです。また、町独自調査により、線量の高いところと比較的低いところが分散されていることが判明していますので、ライフライン・インフラ・公共施設等の損壊調査を開始し、復旧に備え、「全町計画的避難区域」に指示替えを依頼し、一日も早い復旧工事の準備に入りたいと考えています。さらに、地域再生、産業再生のため「特別法」の制定を重ねて強く国に要望します。自然災害と原子力災害は、まったく異なるもので、放射能の影響による長期間災害であるため、各分野において「特区」の位置付けが必要です。沿岸地域の再生・

中心市街地の再生・緑豊かな農村地域の再生・中山間地域の再生等には、予算措置はもちろん、省庁間の垣根をはずした「国家ビジョン」が不可欠であることから、国・県の強力なサポートをお願いしております。
なお、損害賠償・補償については、町議会とともに「損害賠償紛争審査会」の中間指針が実態に添うよう、国・東電に変更を要望・要求してまいります。また、申請書の手続きを簡潔にするようにも訴えております。
避難したときは、桜のつぼみが小さい時期でしたが、今はコスモスの花が咲く季節となりました。天高く澄みきった青い空の浪江町を思い、戻れることを念じ、皆さまへのメッセージとします。

浪江町内小中学校等の空間放射線量測定結果

浪江町が独自に実施した浪江町内小中学校等の空間放射線量の測定結果をお知らせします。

(測定地：地上高H=1.0m 単位：μSv/h)

測定地	測定値 (9月9日)	測定値 (9月16日)
役場津島支所	7.61	7.49
津島小学校	8.82	8.27
津島中学校	11.10	11.00
浪江高等学校津島校	16.00	15.90
苅野小学校	8.07	8.16
川添字中上ノ原地内	7.60	6.74
大堀小学校	7.50	6.81
浪江中学校	10.40	8.98
ふれあいセンターなみえ	9.23	10.10
浪江小学校	1.37	1.24
浪江高等学校	4.18	4.02
藤橋字亀下地内	1.77	1.68
浪江町役場	0.63	0.65
北幾世橋字北中谷地地内	0.65	0.68
幾世橋小学校	0.55	0.52
請戸小学校	0.32	0.32
浪江東中学校	0.62	0.56

仮設住宅の空間放射線量測定結果

浪江町の各仮設住宅の空間放射線量測定結果をお知らせします。

(測定地：地上高H=1.0m 単位：μSv/h)

測定地	測定値 (9月12日)	測定値 (9月20日)
郭内公園仮設住宅	0.47	0.42
塩沢農村広場仮設住宅	0.27	1.23
安達運動場仮設住宅(A)	0.31	0.36
浪江小学校(旧下川崎小)	0.65	0.53
浪江中学校(旧針道小)	0.45	0.45
建設技術学院跡仮設住宅	0.28	0.32
太平農村広場仮設住宅	0.49	0.45
杉内多目的運動広場仮設住宅(中央西)	0.22	0.22
杉内多目的運動広場仮設住宅(中央東)	-	0.29
旧平石小学校仮設住宅	0.26	0.28
杉田農村広場仮設住宅	0.66	0.66
杉田住民センター仮設住宅	0.29	0.52
永田農村広場仮設住宅	0.11	0.15
岳下住民センター仮設住宅	0.47	0.40

測定地	測定値 (9月7日)	測定値 (9月15日)
桑折駅前仮設住宅(第一集会所)	0.14	0.15
桑折駅前仮設住宅(第二集会所)	-	0.15
宮代地区仮設住宅	0.46	0.38
北幹線第一仮設住宅(北集会所)	0.16	0.17
北幹線第一仮設住宅(南集会所)	-	0.16
笹谷東部仮設住宅	0.23	0.20
南矢野目仮設住宅(北ブロック集会所)	0.13	0.15
南矢野目仮設住宅(南ブロック集会所)	-	0.13
森合仮設住宅	1.01	0.39
しのぶ台仮設住宅	0.09	0.11
佐原地区仮設住宅	0.08	0.07

測定地	測定値 (9月8日)	測定値 (9月13日)
恵向公園仮設住宅	0.32	0.32
高木運動公園仮設住宅	0.36	0.35
小田部旧総合支所仮設住宅	0.30	0.26
石神第一グリーンパーク仮設住宅	0.42	0.43
石神第二グリーンパーク仮設住宅	0.45	0.35
栗木平老人福祉センター仮設住宅	0.24	0.22
和田石上カルチャーセンター仮設住宅	0.62	0.64

(5) 「情報ひくあつ」には、9月20日現在の情報を掲載しています。今後、内容が変更になる場合もありますので、あらかじめご了承ください。



問合せ
申込み
電話
ファックス
メールアドレス
ホームページアドレス
フリーダイヤル

一時立入(2巡目)の受付

一時立入(2巡目)の受付は、**10月14日(金)**までとなります。
2巡目の立入をご希望の方は、意向確認書で浪江役場二本松事務所へお申し込みください。意向確認書の請求は、一時立入計画班までご連絡ください。
一時立入計画班
TEL 0243-62-0123

高齢者福祉大会

高齢者福祉大会は、厳しい避難生活の中、一同に会することが困難であるため、本年度は中止とします。
敬老祝い金は、これまでどおり支給しますが、本年度は現金

後期高齢者医療保険のお知らせ

後期高齢者医療保険料概算納付の方(平成23年4月の年金天引き分)の還付は、広報なみえ8月号で10月末ごろまでに還付と掲載しましたが、所得の確定に時間がかかり、保険料(II免除額)確定までに時間がかかることや件数が多数に上ることから、もう少し時間がかかる見込みです。申し訳ありませんが、ご了承くださいますようお願いいたします。
健康保険班健康係
TEL 0243-62-0123

高齢者等のインフルエンザ予防接種

対象者
浪江町に住所があり、接種日

「絆づくり」パークゴルフ交流会

パークゴルフをとおして元気を取り戻し、相互の交流を深め、復旧復興を図るため「絆づくり」パークゴルフ交流会を開催します。
開催日 10月26日(水)雨天決行
時間 付…8時
受 付…8時
開会式…9時
競技開始…9時30分
開催場所 二本松市日山パークゴルフ場
参加人数 160名
参加資格 双葉郡内在住の方および旧双葉郡在住で避難しているパー

クゴルフ愛好者。
いわき市・二本松市のパークゴルフ協会およびパークゴルフ愛好者。
参加費 一人1,500円(昼食・抽選含む)
※参加費は、返金できませんので、不参加の場合は、代理者の参加をお願いします。
申し込み先 なみえパークゴルフ協会
会長 長岡惣一まで。
〒960-8074
福島市西中央5-33-2
克蘭ソレイ西中央301号
TEL FAX 024-573-5656
携帯 090-2602-4696
申込締め切り 10月19日(水)

(定員になり次第締め切りします)
競技方法 36ホールストロークプレー(一部変更あり)使用コース…
日山コース(9ホール2回)
羽山コース(9ホール2回)
※上位5位まで同スコアの場合、カウントバックにて決定する。日山↓羽山
表彰 男女別に上位5位まで表彰
その他 1 競技ルールに違反したときは失格とする。
2 NPGA認定用具を使用のこと。
3 組み合わせは大会事務局で決定する。

4 当日、万一の事故については、参加者で対応する。
主催 なみえパークゴルフ協会
二本松市パークゴルフ協会
共催 浪江町・二本松市・浜南パークゴルフ交流会
大会事務局
なみえパークゴルフ協会
事務局 横山 開
TEL 090-2279-6072

暮らして仕事に大きな安心を

求職活動中の生活と就労等のご相談に応じて関係機関と連携してさまざまな支援を行います。電話による相談も対応して

ます。お気軽にご相談ください。
①生活資金に関する相談
②住居確保に関する相談
③就職支援に関する相談
④能力開発に関する相談
福島窓口
郡山窓口
ふくしま地域共同就職支援センター(内)
開所時間 月々金曜日 8時30分
※土・日曜日は休所
TEL 024-995-5057

郵便局へ転居届を

お近くの郵便局の窓口へ転居届を出すことで、1年間旧住所(浪江町)あての郵便物等が新住所(避難先)に転送されます。大切な郵便物を受け取るためにも郵便局へ転居届を出しましょう。

に65歳以上の方
60〜64歳の方で、心臓・腎臓・呼吸器の機能に障がい(身体障害者手帳1級)のある方、またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障がいのある方で接種を希望する方
接種場所 各医療機関
※保険証を持参してください。
実施期間 10月17日(月)〜12月28日(水)
費用 全額公費負担
※福島県内の方は、医療機関での窓口負担なし
※県外の方は、一時立て替え払い後、助成の申請をしてください。(申請書の請求は、健康係まで)
※予診票は、医療機関に備え付けの用紙を使用してください。
健康保険班健康係
TEL 0243-62-0123

原子力損害賠償

お問い合わせ・相談

〔弁護士に面接形式で相談したい〕
■福島県弁護士会震災・原発相談窓口受付フリーダイヤル
●内容：県内8カ所での面接形式での無料法律相談(30分)の内容紹介および予約受付
TEL 0120-700-7910(平日 10時~16時)
〔弁護士に本格的に相談したい〕
■福島県弁護士会原子力発電所事故被害者救済支援センター
●内容：担当弁護士の紹介
TEL 024-533-7770(平日 10時~15時)
<対応のながれ>
①センターへ電話 ②担当弁護士の紹介
③担当弁護士へ連絡 ④担当弁護士事務所へ相談
<相談内容>
●原子力損害賠償に関する相談(3回まで無料)
●東京電力に対する仮払い請求の代理(有料)
●東京電力に対する損害賠償請求の代理(有料)
●紛争解決センターへの和解仲介の申し立ての代理(有料)
*補償内容に少しでも納得のいかない点がある場合は、安易に合意せず弁護士など専門家へ相談することをお勧めします。

〔弁護士に電話で相談したい〕
■東北地方太平洋沖地震無料電話法律相談
●内容：被災者(原子力災害被災者含む。)のための無料電話法律相談
TEL 024-534-1211(平日 14時~16時)
TEL 024-925-6511(平日 14時~16時)
TEL 0242-25-0455(平日 14時~16時)
TEL 0246-25-0455(平日 14時~16時)
TEL 0120-366-556(平日 10時~15時)
※日弁連等

広報なみえ 2011.10.1

(4)

個人債務者の私的整理に関するガイドライン説明会

「津波や地震で家や車も失ったのに、ローンは残って支払いが難しい」「事業を再開したいが、自身で壊れた設備の負債が残っている」などのお悩みをお持ちの個人や個人事業主の方の生活再建に向けた「個人債権者の私的整理に関するガイドライン」が取りまとめられ、8月22日から適用がスタートしました。ガイドライン運営委員会の職員が、このガイドラインに基づく事務の整理について説明します。

事前の予約や参加料は不要です。

▽日時

10月4日(火)、5日(水)、6日(木) 18時～19時30分

▽場所

- 4日 郡山市労働福祉会館
 - TEL 024-932-5279
 - 5日 原町商工会議所
 - TEL 0244-22-1411
 - 6日 いわき市労働福祉会館
 - TEL 0246-24-2511
- ▽個人版私的整理ガイドライン運営委員会福島支部
- TEL 024-526-0281

「学生の皆さんへ」ふくしま大卒等合同就職面接会

平成24年3月に大学院・大学・短大・高専・専修学校などを卒業予定の方、平成23年3月、平成22年3月、平成21年3月に卒業して、現在就職活動をしている方を対象に、県内の就業場所または営業拠点を有し、正社員として雇用する計画のある事業所との就職面接会を開催します。

▽日時

11月2日(水) 13時～16時

▽場所

郡山ビューホテルアネックス (郡山市中町10-10)

▽主催

厚生労働省労働局、公共職業安定所、福島県、郡山市

▽実施内容

事業所ブースにおける人事担当者との個別面接、安定所等各機関による職業相談・情報提供など

▽その他

- ①事前申し込み不要です。
 - ②参加事業所は、開催1週間前に福島労働局ホームページ上で発表します。
- ▽厚生労働省福島労働局職業安定課
- TEL 024-529-5396

東日本大震災被災者合同面接会

▽日時 10月14日(金) 13時30分～16時 (受付開始 13時)

▽場所

ウエディングエルティ 1階 スクエアルーム (福島市野田町1丁目10番41号)

▽参加企業数

被災者に対しての雇用を優先的に取り扱う企業等25社程度の参加を予定

▽主催

福島労働局、福島公共職業安定所、二本松公共職業安定所、福島キャリアアップハローワーク

TEL 024-529-6626

閉庁日のお知らせ

10月15日(土)から毎週土曜日が閉庁日となります。

閉庁日は、日直が対応します。なお、閉庁時も被災者支援業務と戸籍関係業務の一部を行います。

▷閉庁日 土・日・祝日
▷日直受付時間 8時30分～17時15分
▷日直対応業務

- ①被災者支援業務
 - 安否確認、所在報告受付
 - 各種申請書の配布、收受
- ②戸籍関係受付業務
 - 戸籍関係届出書の收受(出生・婚姻・死亡届など)
 - 各種証明書交付申請書の受付(受付のみ。後日、証明書等を郵送します。)

▽浪江町役場二本松事務所
TEL 0243-62-0123

こころの健康相談

不安で眠れない」「夜中に目が覚める」「考えがまとまらない」「何も手につかない」「食欲がない」など困りごとあれば相談しましょう。

- ◆精神保健福祉センター
TEL 0570-064-556
- ◆福島いのちの電話
TEL 024-536-4343

二本松の提灯祭りのお知らせ

10月4日～6日の3日間、二本松市内で「二本松の提灯祭り」が開催されます。

祭典期間中は、交通規制がかかりますので、現場の若連、警察官、交通警察などの指示に従って通行してください。役場二本松事務所へお越しの際は、ご注意ください。

選挙のお知らせ

浪江町では、浪江町長選挙・福島県議会議員一般選挙を11月10日告示、11月20日投票の日程で行う予定です。浪江町から避難されている方は、当日の投票や期日前投票の他に次の方法により不在者投票をすることができます。

また、浪江町から他市町村に転出(住民票の異動)された方は、

投票できない場合があります。

なお、選挙のお知らせや入場券は、浪江町が現在把握している安否情報をもとに郵送します。

避難先を移動している方は、浪江町所在確認担当(TEL 0243-62-0123(代表))までご連絡ください。

なお、立候補予定者の説明会は、10月22日(土)14時から男女共生センター第3研修室で開催予定です。

■不在者投票の手順

現在お住まい(避難先)の市町村で不在者投票をすることができます。

①後日郵送する「宣誓書(請求書)」に記載例を参考に「ご記入の上、返信用の封筒によりご返送ください。

②「宣誓書(請求書)」が、浪江町選挙管理委員会に到着後、所定の審査を行い「投票用紙」を送付します。

③投票用紙がお手元に届いたら、現在お住まい(避難先)の市町村の選挙管理委員会に不在者投票ができます。

【注意】

市町村の選挙管理委員会以外で投票すると無効になりますので、ご注意ください。投票後は、現在お住まい(避難先)の市町村の選挙管理委員会に投票用紙を浪江町選挙管理委員会まで送付します。

▽浪江町選挙管理委員会 (浪江町役場総務課内)
TEL 0243-62-0123

一日合同行政相談

行政に関する苦情や意見・要望をお気軽ににご相談ください。秘密は厳守されます。

▽日時

10月21日(金) 10時～15時

▽場所

郡山市男女共同参画センター2階集会所 (郡山市麓山2-9-1)
TEL 024-924-0900

▽相談内容

国・県・市町村や特殊法人などの仕事に関する困りごとや要望など。被災者の支援策、原発補償、放射線に関するご相談など。

▽相談料

無料

*予約の必要はありません。

ただし、相続、離婚、金銭貸借等の法律相談(弁護士、司法書士が対応)は予約が必要です。

予約先：福島行政評価事務所 行政相談課

TEL 024-534-1101 (10月17日) 10時～予約受付

▽参加機関
福島地方方法務局、仙台国税局 税務相談室、福島労働局(労働基準監督署、公共職業安定所)、

東北地方整備局郡山国道事務所、東北運輸局福島運輸支局、

福島県外の民間借上げ住宅 特例措置

民間賃貸住宅等を応急仮設住宅として受け入れている県は次のとおりです。(9月13日現在)

福島県県外避難者支援担当 TEL 024-523-4157		
都道府県	問い合わせ先	
青森県	017-734-9580/9581	
岩手県	0120-882-606	
宮城県	022-211-3257 0120-960-003 「11199」を入力 仙台市、七ヶ浜町の申込受付終了。	
	秋田県	018-860-4503
	福島県	024-521-7698/7867
	茨城県	029-301-5977
栃木県	028-623-0618/0619	
群馬県	027-226-2950/2951 027-223-5811 027-226-3718	
	千葉県	043-223-2675
都道府県	問い合わせ先	
神奈川県	045-210-5985	
新潟県	025-280-5444 025-282-1775	
	長野県	026-235-7407
静岡県	054-221-3081	
兵庫県	078-232-9564 078-341-7711	
鳥取県	0857-26-7411	
島根県	0852-22-5084	
長崎県	095-895-2410	
宮崎県	0985-26-7196	
沖縄県	090-3794-0530/8217 090-3792-3168/3161 090-3790-0137/1713	

被災者支援無料相談会

雇用・労災・労働・年金に関する住民の皆さんの困りごとや悩みごとなどのご相談にお応えします。

▽日時

10月6日(木) 13:00～17:00

10月13日(木) 13:00～17:00

10月20日(木) 13:00～17:00

10月27日(木) 13:00～17:00

場所 (福島県男女共生センター内)

5階 第5研修室

4階 第1研修室

▽相談員 社会保険労務士1名

▽相談内容

東日本大震災および福島第一原子力発電所事故などによる雇用・労災・労働・年金に関すること。福島県社会保険労務士会 担当 丹治

TEL 024-535-4430
FAX 024-534-5432

浪江の こころ通信

第4号



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会は、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信」第4号への感想をお寄せください。

【連絡先】〒976-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
男女共生センター内 浪江町役場二本松事務所
「浪江のこころ通信」宛
FAX.0243-22-4261



サポートセンターのお知らせ

10月3日再開

一樹デイサービスセンター
(二本松市：杉内多目的運動場)

10月17日再開

オンフル双葉デイサービスセンター
(二本松市：安達運動場)

11月1日再開

リハ・アクティヴセンターTAIYO
(本宮市：本宮運動公園みんなの原っぱ)

浪江町デイサービスセンター
(桑折町駅前)

* デイサービスセンターのご利用は、担当のケアマネージャーにご相談ください。

【おたまじゃくしクラブ】

未就学児の一時預かり

- ◆対象者 満1歳以上の未就学児 ※0歳児は利用できません。
- ◆利用日 月～金曜日
- ◆利用時間 9時～15時
- ◆送迎 家族
- ◆昼食 弁当持参
- ◆利用料 50円/日
- * 1日10名まで

【配食サービス】

- ◆対象者 おおむね65歳以上の独居または老人世帯(自炊困難)で、二本松市または本宮市の仮設住宅にお住まいの方
- ◆利用日 月～金曜日の昼食か夕食
- ◆利用回数 週3回まで
- ◆料金 1食300円

【モーニングサロン】

- ◆利用日 月～金曜日
- ◆利用時間 7時30分～8時30分
- ◆メニュー パン+コーヒー またはおにぎり+みそ汁
- ◆料金 自分で焼いてよそって 1食150円
- * 先着20名

【かえるクラブ】

放課後の児童預かり

- ◆対象者 小・中学生
- ◆利用日 月～金曜日
- ◆利用時間 16時～18時
- ◆送迎 サポートセンターまではスクールバス。帰りは家族迎え。
- ◆利用料 50円/日

【訪問理容】

散髪、顔そり

- ◆対象者 おおむね65歳以上の独居または老人世帯で、移動が困難な方
- ◆利用日 基本は希望日
- ◆利用制限 2カ月に1回、1日に4人まで
- ◆料金 1回1,500円

【土・日曜日のサロン】

- ◆利用時間 9時～16時
- おしゃべりしたり、お茶を飲んだり、楽しい時間をお過ごしください。



* 18時～20時にサポートセンターを利用したい方は、申込書を提出してください。

- ◆利用料 ガスを使用する場合 1時間400円
ガスを使用しない場合 1時間250円

お問い合わせ

NPO法人 Jin TEL 080-6013-7504
受付時間 月～金曜日 9時～16時

浪江町体操教室

- ◆開催日時 毎週1回 14時～16時
- ◆対象者 65歳以上の方
- ◆場所 仮設住宅集会所
- ◆利用料 無料
- ◆スタッフ リハ・アクティヴセンターTAIYOスタッフ

開催日程については現在調整中です。決まり次第、仮設住宅の掲示板へ掲示します。

* 申し込み不要。仮設住宅以外の方も参加できます。

TEL 080-5949-7270

浪江町仮設診療所
(二本松市油井字長谷堂230番地 安達運動場内)

10月														月日	担当医師					
31日(月)	28日(金)	27日(木)	26日(水)	25日(火)	24日(月)	21日(金)	20日(木)	19日(水)	18日(火)	17日(月)	14日(金)	13日(木)	12日(水)	11日(火)		7日(金)	6日(木)	5日(水)	4日(火)	3日(月)
関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根
(午後) 佐川	西	今村	玉井	佐藤	(午後) 佐川	西	今村	玉井	佐藤	(午後) 佐川	西	今村	玉井	佐藤	西	今村	玉井	佐藤	(午後) 佐川	手塚
手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚

仮設診療所 担当医師予定表



私は、震災3日後に親戚のおじさんが住んでいるさいたま市に避難してきました。お父さんは福島で働いていて月に1回から2回会いに来てくれます。昨日は私の誕生日だったのでお父さんも一緒にみんなでケーキを食べました。

今は毎朝、通学班のみんなと一緒に学校へ通っています。新しい友達もできました。学校で一番楽しいのは、友だちと話したり遊んだりしているときです。休み時間になるとみんなが遊びに誘ってくれるのがうれし



お気に入りのマグカップを前に並べて。
左から花菜ちゃん、舞ちゃん、羽海ちゃん

羽海ちゃんは現在、親戚の叔父さんが住んでいるさいたま市に妹の舞ちゃん(小2)と花菜ちゃん(小1)祖父母、お母さんと暮らしています。お父さんは福島で働いているため離ればなれの生活です。

いす。この間、始業式があった学校に行つたときも友だちから声をかけてくれました。

浪江にいたときは、自転車にいつぱい乗ったり、ずっと外で遊んでいました。でも、ここは自動車が多いので浪江にいたときのように遊べません。

今一番したいことは、沢上の花火を見て、きれいな着物を着てよさこいを踊ること。それから「なみえ焼そば」も食べたいです。そして浪江の学校にも行きたいし、お友だちにも会いたいです。



埼玉県

渡部

羽海ちゃん(小4)(立野)

取材者：ちば市民活動・市民事業サポート
クラブ 大内・牧野
取材日：9月11日

浪江・沢上の花火を見たい なみえ焼そばが食べたい



福島県

根本 昌幸さん(苅宿)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山
取材日：9月4日

孫の成長に、生きがいと希望を託して

JR富岡駅前の勤務先で地震に遭い、直後の津波から逃れながら、何とか苅宿の自宅にたどり着く。すぐに母親や妻、孫、そして愛犬とともに津島へ避難。3日後、福島市へ移動し、到着直後は友人宅に。その後、義理の弟さん宅で3月半ばからの3カ月弱を過ごし、6月初旬に相馬市の借上住宅に転居。



おばあちゃんと根本さんご夫妻、そして愛犬ココ、みんな一緒に。

ともかく、家族全員が無事に帰宅し、避難したあの日強い揺れの後、職場から水平線を見つめると、10mを超すと思われる真つ黒い波の壁が見えました。とつさに大津波の危険を確信し、近くの人に避難を呼びかけました。通称「山麓線」をたどって自宅へ戻ろうとしましたが、橋のたもとには大きな亀裂や隆起ができていて、周りの人たちと丸太を組み、助け合いながら家に戻りました。自宅にいた今年93歳になる母は歩くことが不自由でしたが、

あの非常時だからだったのでしょうが、迅速に200m離れた隣家を頼り、無事でした。

また、町の体育館に向いていた妻、洋子は、途中にある浪江高校の生徒たちに請戸地区の津波を知らせたり、避難を呼びかけたりしながら家に向かったようです。苅野小学校に通学していた孫の郁弥も無事に帰宅し、愛犬を伴って全員で津島の避難所に行きました。

愛犬が一緒だったので私は車で寝泊まりし、配られる小さなおにぎりや4人で1個のメロンパンを分け合って食べました。その大変な体験と、避難先の福島での生活とを経験した孫はたくましくなったように感じます。

仲間や同窓生、さまざまな人たちに支えられて

私も妻も詩人としての活動が長く、作詞活動を通じた音楽関係の先輩後輩や、作り上げた歌を届けた施設の方々から、本当に多くのお心遣いや差し入れをいただきました。また、妻の出身地福島市の友人たちが消息を心配してくれたり、かつての部活の仲間たちが励ます会を開いてくれたりと、多くの人に支え

られて今があります。介護ベツトが必要な母のために仮設住宅より借上げ住宅をと、この相馬の家を紹介してくださったのも歌を通じて知り合った施設の方でした。

原発事故の深刻さを知らされるたびに、浪江へ戻ることは無理なかもしれませんが、浪江町の人々が活躍している新聞記事などを目にする、とてもうれしいです。

避難するたびに転校することになった孫はかわいそうでしたが、今は元気に野球を頑張っています。

これから、私が作詞した「ふるさと浪江」のレコーディングをしますが、私の中ではいつまでも美しい浪江のままです。歌のイメージを壊したくないので、まだ無残な浪江は見たくありませんが、一段落したら墓参りをしに一時帰宅したいと思っています。



役場から

金山 信一さん(立野)

取材者：地域社会デザイン・ラボ 遠藤
宮城大学地域連携センター 高田
取材日：9月14日



仕事帰りに福島駅前にて

浪江の人・海・山・川を想って…

現在は、二本松市にある浪江町役場で総務の仕事を担当。住まいは、本宮市で家族とともに暮らす。活発だった小中高校の横のつながりの会合を「これからもできれば…」と懐かしむ。浪江の自然を愛するアウトドア大好き人間。

震災の後には、非常用電源を確保したり、避難物資を運んだり、炊き出しのための食糧の確保のために会社や商店、農家をお願いに出かけたり、避難所で食事を配る担当をしたり、役場の移転や出張所立ち上げの担当になり必死でした。でも「うちら職員がやらねば誰がやる。」という気持ちで、一生懸命に動く仲間たちに支えられてきました。

今後、浪江に帰ったら、自然を感じて楽しむ生活をまた送りたいですね。また、家族に任せきりだった田畑もなるべく頑張りたいと思います。

今、浪江で思い出すのは、家族や子どもたちと出かけた川や海のことです。季節ごとに我が家の楽しみのサイクルができていて、4月はヤマメ釣り、7月はアユ釣り。また、海釣りでは夏にアジやイシモチを釣ったものです。

私の家族は震災後、何カ所か避難所を回った後、妻と子どもたちは静岡県に、母と祖母は神奈川県に、祖父は猪苗代町に分散避難し、私は役場の仕事があるので一人でした。連絡もままならない場合があり苦労しました。でも今は、やっと家族が2カ所に分かれながらも近い場所で暮らせるようになりホッとしています。



郡 崇斗くん(小4)(北幾世橋)

取材者：特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ 佐藤
取材日：9月10日

原発はばく発したけど、 ぼくのこころはばく発しないぞ！

浪江町では幾世橋に住んでいて、今は福島市上鳥渡しのぶ台の仮設住宅に住んでいます。幾世橋小学校のみんなに会いたいな。あそびたいな。そして、桑原先生にまた怒られてみたいな。

9月12日、アメリカでテロのあった翌日が、ぼくの誕生日です。



崇斗くん(中央)を囲んで、
祖父母、父母、弟、愛犬イチ

震災後は、小高工業高校、相馬市、宮城県角田市、埼玉県、あだたら体育館、土湯温泉と移って、ちょっと前に福島市上鳥渡しのぶ台の仮設住宅に引っ越してきました。すぐ南前の仮設住宅に、おじいちゃんおばあちゃんが住んでいて、犬のイチも、みんないっしょです。

学校は、荒井小学校に通っています。幾世橋小学校のときの近くの子も何人かいるのが、うれしいです。友だちもできました。9月18日が運動会です。楽しみです。

浪江町であった、初発神社の盆踊りのことやふれあいまつりでのもちつき、雑煮もちのこと、みんなでザリガニ取りをしたこと、3年生のときにビーズのストラップを作ったことなどを思い出します。

幾世橋小学校で大の仲よしだった原田勇真くん(浪江のこころ通信第2号に登場)が、避難先の桑折町立醸芳小学校にいたとき、ぼくが会ったこともない勇真くんのクラスの子全員から、手書きの励ましの手紙をもらいました。ぼくの宝物です。



福島県

若勢

重孝さん(権現堂)

取材者：特定非営利活動法人
ピンスフクしま 豊田
取材日：9月12日

絆を大切に



今の生活

私は今、二本松の借上げ住宅で暮らしています。

浪江で菊を長年育ててきました。少しではありますが、また1から育てています。きれいな菊が咲くことを願いながら、前向きな思いで暮らしています。

大切に思うこと
長年、浪江で郵政に勤めて

いました。浪江町民を多く知っており、みなさんを友人以上の関係だと思っています。毎日、新聞を読んでいて、言葉にならない思いがあります。また、福島市や郡山市、他県へそれぞれ移った方と会う機会が減りました。なかなか顔を見て話すことが減った今、「絆」が一番大切なことだとあらためて気付きました。

私には娘が4人おり、17人の大家族です。先日のお盆のときには家族全員が集まりました。秋にはまた集まり、芋煮会などをしていと思っています。こうして家族の顔を見ることが幸せに感じます。里帰りに向けて町に帰りたいです。里帰りできる日を願っています。早くふるさと浪江で皆さんにお会いできる日を心待ちにしています。

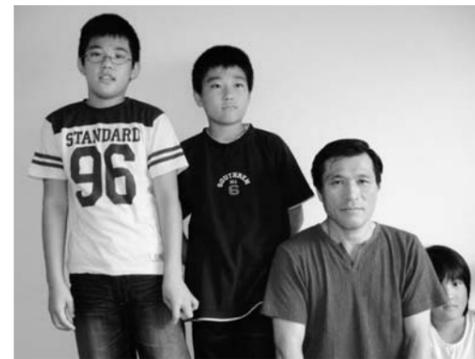


東京都

五十嵐 明さん(請戸)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポータークラブ 風間・鍋嶋
取材日：9月17日

子どもたちの育ちを大事にしたい



左から涼くん(小6)、
竜也くん(小5)、明さん、
美菜ちゃん(小4)

親戚を頼って東京に避難。現在は、3人の子どもたちの小学校への通学を考え、北区の都営住宅に家族5人で暮らす。

とにかく、4月から子どもたちを学校に通わせたくて、編入手続きをしたところ住民票も移すことになってしまいました。浪江からの情報が来なくなる不安もあり、浪江町役場や北区役所に確認、住民票を浪江町に戻しました。近くには知り合いもおらず、病院のこと、予防接種のことなど、子どもたちに関する手続きなど、何度も尋ねないと解決しないことが多く大変です。娘の美菜は、「東京は、建物が

卒団式があり、家族5人で福島に帰りました。友だちとの再会がよほどうれしかったらしく、子どもたちは夜じゅう、はしゃいで少年団の方に叱られたそうです。仕事のことや長男の中学進学を考えると、東京での生活を続けるか、福島に戻るかを秋には決めなければと思います。しかし、先の見通しがつかない中、迷いがあります。今は、じっと耐え、子どもたちの将来も考えて決めていきたいと思っています。

いっぱい建ってるね。」と言います。涼しい海風、新鮮な魚など、浪江の暮らしが思い出されます。9月10日にスポーツ少年団の



栃木県

玉井 三千子さん(権現堂)

取材者：とちぎボランティアネットワーク 君嶋・大泉
取材日：9月13日

また浪江で生活を

5年前、栃木県宇都宮市から浪江町へ移り住んだ玉井さん家族は、最初戸惑いはあったものの浪江町での生活に充実を覚えていた。

そんな中の今回の震災。またすぐに戻れると財布と愛犬を連れ出てきたが…。

現在は、宇都宮市に家族と住んでいる。

震災のあと自宅は大丈夫だったので、津波の被害にあった知人家族を自宅に泊めていた。

自宅を片付け、津波の被害にあった人もいるが、「また以前の生活に戻れるように一緒に頑張らないとね。」と話していた矢先に避難指示が出た。すぐまた戻れると思い、財布と愛犬を連れて出たが、戻れたのは一時帰宅のみ。自宅は荒れた状況だった。

それでもいつになるか分からないが、帰町したいと思う。戻っておいしい魚が食べたい。

こっちに来て、今までどれだけ新鮮な魚を食べていたか実感した。また、離れてより一層浪江の素晴らしさを実感している。都会のような物質的な豊かさは無いかもしれないが、人の温かさや時間の流れや風土など、心の豊かさと環境の豊かさが浪江の良さだと思う。

子どもたちの友だちの中にも亡くなった方もいるが、その人の分も一生懸命に生きようと話している。また浪江の人たちと元気な姿でいつか会いたいのとも。

そして、いつになるか分からないが、豊かな浪江で以前のような暮らしがしたい。



玉井さんご家族



大山 恵さん(川添)

取材者：一般社団法人いなかパイプ 佐々倉
取材日：9月12日

前向きに笑顔を絶やさずに、今できることを

長女・諒子ちゃんと恵さんの故郷・高知で元気に暮らす現在ですが、郡山に暮らす親戚の近くへ暮らそうと10月に栃木県へ引っ越し、新しい生活がスタートします。

家族全員無事だった
高台に家があったこともあり、津波は大丈夫でした。けれど、家の壁は崩れて、隣の部屋が見えているとか、食器が棚から出て全部割れて泥棒が入ったような状態。揺れない時間の方が短いくらい余震もひどく、「今日が私の命日か。」と思つたほど怖かつたです。戦後の焼け野原のように何にもない海岸沿いを車で逃げながら、千葉で単身赴任中の主人とも携帯電話がつながらない状態でしたが、必死で何度も連絡をとりました。幸いにも家族、親戚、友だちもみんな無事で「逃げ足の速いやつらばかりだな。」と後で主人と笑いました。

なみえ焼そばが食べたくなる
高知に来てから、時折、娘が「ママ、スーパードなみえ焼そば買って来て。」と言っんです。「高知には無いから。」と答えるんですが、ときどき食べたくなります。麺がうどんくらい太くて、極太・大・中と太さも選べて、甘いソースがついていて、スーパード売っています。私が初めて食べたのは、主人の友だちが作ってくれて、ウインナー、たまねぎ、もやしが入ったもので、「うわぁー焼きうどん！」と言つたら「ソバだから。」と

言われました。
浪江は、食材が豊富で魚もおいしい。そろそろ鮭の時期になります。娘も大好きで、鮭のつかみどりをさせてもらって、家に持ち帰って、庭でチャンチャン焼きをしたのを思い出します。こんなどうでもいいようなたわいもないことが、本当に幸せなんだなとつくづく思います。
おかしくなくても笑っていられば楽しくなる
私は、娘が笑っている姿が見たい。「お母さん、大丈夫？」と言われるのだけは避けたい。震災直後、娘に「死ぬときは一緒だから。大丈夫だから。」と前を向いて笑ってほしい。その言葉に背筋がしゃんと伸びるような気持ちになりました。娘も不安だつただろうに、私に不安な顔をしていたからだと思えます。私が不安な顔をしていると、娘も不安にさせてしまう。気持ちを切り替えて、明るく前に進めるように、おかしなくても笑っていられば楽しくなる、そう思つて今できることをやっていくようになりました。
何ができるか、今日できることを考えてやる
ここに来て、扇風機や自転車などいろいろな方に支援していた



大山 諒子ちゃん(7才)

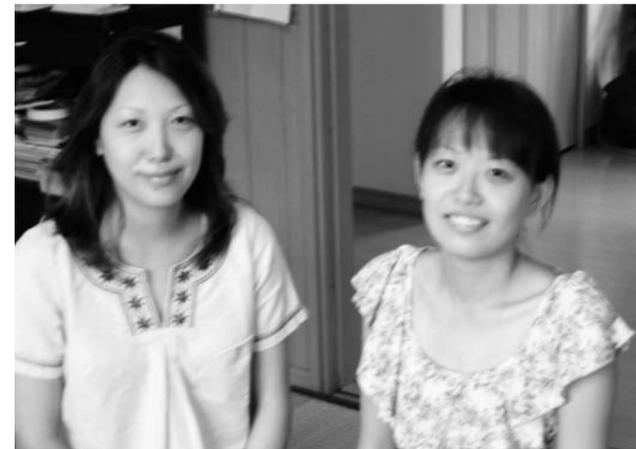


朝田 麻美さん(権現堂)

取材者：くびき野NPOサポートセンター 渡辺・植木
取材日：8月25日

いつか浪江に帰る日まで

震災時、妊娠していた朝田さんは、9月に出産予定。親戚と一緒に避難先を転々としていたが、現在、夫の英謙さんと2人で新潟のアパートに住んでいる。偶然にも、近隣には同郷の避難者も住んでいて、助け合いながら暮らしている。



朝田さん(左)と姉の星野美咲さん(右)

夫と冠婚葬祭の会社を営んでいました。地震発生時もお葬式のため、お葬式どころではなく、外に飛び出しました。
祖父、父母、姉、夫のおぼの子どもら10人で避難した矢吹町では、地元の人のための避難所でしたが、特例として受け入れてもらいました。そこでのガソリンの補給は、とても助かりました。食事には、温かいおにぎりが支給され、心が少し落ち着いたことを覚えています。
その後、私たちは比較的福島

から近く、放射能の心配がない新潟市にある物件を見つけた。慣れない土地で不安もありましたが、役所の方の親切な対応に感激しています。
逆に、原発問題の対応が遅いことには怒りを隠せません。避難時に置いて来た物に、ブルーシートをかけてほしいと声を上げて、2カ月後、やっと話し合いをしていく状態です。東京で原発についてのデモに参加したのですが、全く報道されないことも残念。復興に向けて何もできないことが大変悔しいです。
自分たちが新潟に拠点を置くかどうかは、今後の浪江の復興次第です。今は心も体もふらふらしていて幽霊のように感じます。
姉は、住民登録が東京都のまま、体調を崩し療養のために浪江に戻ってきている最中、被災しました。失業保険をもらうのに被災証明書が必要だったので、矢吹町に避難していた3月20日までの名簿を捨ててしまったと聞いて、猛抗議。名簿を捨てるなどはあつてはならないことです。
また私たちには家族同様に大切な愛猫がいて、一緒に新潟に避難してきました。不安や怒りがこみ上げるときでも、猫の存在で少しその気持ちが紛れます。

人間も生活を安定させることに必死ですが、それは動物たちも同じこと。テレビのニュース等で、被災地に置き去りにされた動物たちを見ると、心が痛みます。
私は、浪江町で生まれ育ちました。浪江町への思いは人一倍強いです。今回の地震については、本当にショックが大きいのですが、浪江とつながっていたという気持ちがあるので、住民票もしばらくは動かさずもっています。今は浪江に帰れませんが、生まれくる子どもがひとり立ちしたら、例えば放射線の問題が残っていたとしても、浪江に帰りたいと思います。私のおふるさとには浪江しかないのですから。
妊婦という立場での避難生活、たいへんな時期もありましたが、今は35週目で安定し、定期的にプールの通ったり、ウォーキングをしたりと元気な赤ちゃんを産むためにがんばっています。この通信が完成するころには、元気な赤ちゃんが誕生しているといいなあと願っています。「広報なみえ」を見て、私たちが元気がいいことを知ってもらえ、皆さんの様子が分かる、この機会を作ってもらえて本当に感謝しています。



牛来 照雄さん(川添)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 松田
取材日：9月3日

借上住宅にも情報が欲しい

浪江町の川添地区に住んでいる。
震災当日は、翌日に退院を予定して、南相馬市の市立総合病院に入院中だった。
知り合いの車に同乗して自宅に戻ってからは、二本松市を経て千葉県まで避難したが、なかなか浪江の情報が入ってこないのが、4月になって再び二本松市に戻り、その後岳温泉の旅館にお世話になっていた。
6月下旬から、三男家族も避難している桑折町に夫婦で暮らしている。



照雄さんと奥さんの紘子さん

入院していた病院から、津波が迫ってくる様子が見えたので、これは尋常ではないと感じた。病院の廊下や外にもベッドが並べられ、さながら野戦病院のようだった。
被災の後、妻とは別々に避難のための移動をしなければならなかったが、津島の避難所で再会できたことは幸いだった。それでも、避難所での寒さや食べ物の少なさ、状況が分からないことに対する精神的な苦痛など、今思い出してもつらいことが多い。
県内のあちこちに住んでいる知人や友人が、いろいろと気に掛けて支援してくれたことは、物心両面で助けられた。いろんな縁があって桑折町にお世話になることになったが、この家も知人が探してくれたものなので、本当にありがたい。
ここ桑折町は、浪江町に住んでいるとあまり馴染みがないが、ほとんどの用事が歩いて済ませることができるほどコンパクトで便利なところだ。かつて転勤で近くに住んでいたことがあり、果物もおいしく暮らしやすい町なので、大変気に入っている。
そして、浪江でやっていたグランドゴルフを桑折町でも仲間に入れてもらってやれることがうれしい。できれば、そば打ちやパソコンなどもやってみたいと思っている。
最後に、役場へのお願いだが、避難者がまとまって住んでいる仮設住宅には、全国からの支援に関するお知らせなど多くの情報が入ってくるようだが、個別に住んでいる借上住宅にはそうした情報がなかなか入ってこないの、ぜひ情報の伝達について検討して欲しい。



木村 郁也さん(中2)(権現堂)

取材者：特定非営利活動法人ピースふくしま 豊田
取材日：9月14日

走り続けたい



「またいつか、浪江で元気に遊びましょ!!」と浪江の友達に伝えたいです。

今の生活
ぼくは今、二本松市の東和にある仮設住宅で祖母と父、母と兄、妹の6人で暮らしています。ここから東和中学校に通っています。バスの時間があるため、朝早くに登校し夜遅くに帰宅するので、少し大変なところがあります。最初は転校することで、不安な気持ちがありました。けれどクラスメイトはとても優しく、担任の先生は面白いので徐々に馴染むことができました。今はクラスの中で打ち解けて、新しい友だちができてうれしいです。
ぼくは、浪江にいたころから陸上をしていて、走ることが大好きです。走っているときが一番楽しいです。
地震の後、ぼくの家族は岳温泉に4月から8月初旬まで避難してました。
不安に思うこと
この仮設住宅は家族で暮らすには狭いことが不便です。でも、ここに来てから1カ月以上たちましたので、だいぶ慣れてきました。また、まわりには同世代の人が少なく、同じ学校の人が1人しかいないので、遊ぶ機会が少ないことに困っています。
ほかには、離れ離れになった友だちが今どうしているか、心配な気持ちがあります。
今、やりたいこと
浪江の友だちと会って思いっきり遊びたいと思っています。
また、一番やりたいことは、もっと「走る」こと、をしたいと思います。通学にどうしても時間がかかるので、もっと「練習時間があれば」と思っています。
里帰りできたら
「陸上を続けたい」とこと、「友だちと遊びたい」とこと2つです。

いました。岳温泉にいたときも同じように通学に時間がかかり、大変なことがありましたが自主練習は欠かさずに毎日走っていました。
東和中学校は陸上部が盛んで、部員数も多いです。練習内容はとてもきびしいですけど、新しい仲間と一緒にがんばれることがとても楽しく感じています。これからも大会に向けて毎日がんばりたいです。

金井 安雄さん(請戸)

取材者：市民公益活動パートナーズ
(特定非営利活動法人ピースふくしま) 中鉢
取材日：9月15日



生きがいに なるものがほしい



北幹線第一仮設住宅前にて。ちょうど舗装工事が終わったばかりのところでした。

請戸に住んでいた金井さんは、震災後飯館の友人宅、宮城県亘理の息子さん宅、横浜の娘さん宅と移り、6月18日に北幹線第一仮設住宅に入居しました。現在は、奥さまと2人で生活しています。

3月11日の地震があったときは、病院や農協に行った後で、地震がおさまった後、一旦家に戻ると瓦が落ちていました。2度目の揺れが来て、危ないなと思ったので車で避難しました。6号線の如水のところにいると、後から来た人から請戸の部落が無くなっていると聞きました。請戸には津波は来ないからと言って残っていた方もいて、顔見知りや近所でも亡くなった方がいました。
1回目の帰宅のときに見てきたのですが、畑をやっている作物を作っていたり、シルバー人材で植木屋や家の解体の仕事などもやっていたり、その資材などもあったのですが、みんな流されてしまいました。
仮設には6月16日の説明会のあと、すぐに入れたのはよかったです。仮設住宅もまだ直すところがあって、お風呂のお湯と水の調整のこっくの調整が難しいので直してもらったりにしています。
心配なのは寒くなったときです。夜にふと目が覚めたときに将来のことも考えたりもします。気をもんでもしょうがないとは思っています。
この仮設には請戸の人も多いので、集会所で集まって、懇談したり涼んだりしています。鮎とりをしたり、釣りをしたり、鮎のほつてくるのが楽しみだったり、夏は海水浴の監視員をやったり、いろいろ楽しみもあつたのですが、今は夢の夢になってしまいました。
これからのことについては、請戸の360戸が1カ所にまとまって住めるようなものをつくってもらえたらと願っています。



鈴木 美穂さん(川添)

取材者：茨城大学大学院 川又
取材日：9月14日

町中のみんなが「お知り合い」

生後3カ月(当時)の次男を抱きしめて耐え抜いた地震。津波で義父(棚塩)が犠牲になった。現在、茨城県石岡市内の公営住宅に親子4人で暮らしている。

震災発生当日は、川添の実家で被災した。当時、実家には、私、次男(当時3カ月)と実母、祖母がいた。私は、地震の揺れで天井から落ちてきた照明器具が頭に当たってけがをしたが、他の3人は無事だった。

町内の歯科医院で助手として働いていた私は、夕方、仕事が終わると、町内で夕飯の買い物をして帰っていた。「子どもや夫も帰ってくる時間」そう思いながらも、つい買い物の時間が長くなってしまふ。「なんだ、パンゲの支度が？」必ず何人かに声をかけられ話し込んでしまふ。そして、「おばちゃん、もう痛くないですか？」昼間来院した患



鈴木美穂さんと次男(現在6ヶ月)

者さんの姿を見つけては声をかける。買い物を終え帰宅するころには、すっかりあたりは暗くなっていた。「お母さんお腹すいた！」子どもたちが口をとんがらがせて、脚にしがみついてくる。そんな日常だった。

石岡市在住の姉をたよってこの地で生活を始めた。南相馬市内の会社に勤務する夫は、勤務先の業務再開により、南相馬市で単身生活を送っている。仕事が忙しいため、月に一度程度、子どもたちに会いにくるのがせいぜいだ。

見知らぬ土地で最初は戸惑うことも多かったが、9月に入って長女と長男が市内にある私立幼稚園に通い始めた。

避難生活を始めて半年、一時帰宅にも参加したが、地震で傷んだ我が家の周りには、私の背丈ほどになった雑草が生い茂っている。

生まれて以来、私たち家族はみんなこの町「なみえ」で育ってきた。いつかまたこの町に戻り、友だちや親戚、日ごろ気軽に声を掛け合ってきた人たちと、震災や原発事故による避難生活の日々について「あの時は苦労したよね...。」と話せる日が来ること、思い出に変わる日が来ることを信じている。そして、一日でも早く家族がそろって暮らせる「日常」が来ることを願い、しっかりと前を向いて子どもたちを育てていきたい。



泉田七海ちゃん(小2)・真美さん・利雄さん(両竹)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 風間・鍋嶋
取材日：9月12日

3月10日に戻って、いろいろなものを見てみたい

津波ですべて流されて何一つ持ち出せなかった泉田さん家族。数か所の避難所を経て、4月から家族6人で東京都足立区の団地に住んでいます。



『浪江カエル』を抱えた麻衣ちゃん、七海ちゃん、利雄さん(おじいちゃん)、真美さん(お母さん)

浪江にいたときには、お友だちとマリナーパークに行ったり、パークキューをしたり、たくさん楽しいことがあったよ。今、通っている小学校は5クラスもあって、お友だちの名前を覚えるのが大変。浪江の小学校は1クラスだけだったから、みんな仲良しだったよ。

七海ちゃんの話
地震のときは、お母さんと妹の麻衣といっしょに、車で逃げたの。車には、チョコレート1個しかなくて、お腹がぺこぺこだったよ。その日の夜は車の中で寝たの。車の中にあつたカエルのぬいぐるみをずっと大事にしているの。だって、ほかには何も持ってなかつたんだもの。もしできるなら、3月10日に戻って、いろいろなものを見てみたいなあ。海、カエル、おたまじゃくし、ザリガニ...一番に会いたいののは、猫のタロー。どうしているか、とっても心配。

利雄さんの話
地震のときは、家内と津波に追われながら山に逃げました。避難所で息子といっしょになりましたが、孫たちは見当たりませんでした。知人の車を借りて、一晩中あちこちらの避難所を探し回り、出会えたときは、もう言葉にならないほど嬉しかったです。

あつた8回寝たら私の誕生日がくるのが、今一番の楽しみ。妹の麻衣は、電車やバスが好きなので、東京でも楽しそうだけど、東京にはカエルがないねと話しているの。
真美さんの話
ここの住人の方からは、「大丈夫ですか。困ったことはありませんか。」と声をかけていただき、理解ある方に恵まれています。ただ、子どもたちは、飛び跳ねたり、自由に元気に遊びたい時期なのでできないのが、とてもかわいそうです。4月にここに来たときは、長女の学校のことがばかりになり、次女の幼稚園は後回しになってしまい、同じ年代の子とも遊ばせる機会が持てないことが気がかりです。



明歩ちゃんが通う小学校の前で、左から渡部寛志さん・明理ちゃん・明歩ちゃん・直美さん



渡部 寛志さん・直美さん(酒田)

取材者：一般社団法人いなかパイプ
取材日：9月13日
佐々倉

「みかん」で福島と愛媛をつなぎたい

浪江町に農場を持ち小松菜・米・養鶏を育てる農家だった渡部夫妻は、現在、寛志さんが大学時代を過ごした愛媛県に家を借り、家族4人で暮らしている。農地も借りることができ、農家としての再出発も果たしている。

南相馬市小高区で生まれ育ちましたが、農場や生活圏が浪江町にあり、市場に野菜を出したり、浪江町の人たちに自分たちがつくったものを食べてもらっていました。そんな浪江町に住もうと住所を移して間もなく震災に遭いました。

愛媛に避難して地域の方によくしてもらい、家やみかん付きのみかん畑まで貸してもらったことができ、今年からみかんを出荷することができました。このみかんが福島と愛媛をつなげたいと思っています。東北のみかんをつくっている人はほとんどいない。福島の農民と競争することがない作物を送れば喜ばれるだろうし、自分たちとのつながりを保っていきけるだろうと思ってみかん畑を借りました。

これまで付き合っていた地域の人たちが、全国散りぢりになっていきますから、そういう人たちに届けられるようにしたいです。学校給食にでも使ってもらえたら、福島の子どもの口には入ります。そうやってできれば、全量福島に出荷したいと考えています。けれども、私も生活がかかっていますから、成り立つ仕組みを考えていきたいと思っています。また、そうすることで、「自分がめげずに、農業やっているんだぞ。」という主張にもなるかなと思っています。他にも避難者で、農業を再開している人がいますから、その人たちと連携して、今後このような取り組みを展開していきたいと思っています。

つながる ところ

町民の皆さまから寄せられた
メッセージをご紹介します。

堀知木共助会の皆さん、お元
気ですか。

今、広島で田舎農業をかじり
始めました。浪江へ帰ったら、
会員のみennaと田畑の中で、
また手作り花見をやりたいね。
がんばろう 浪江
がんばろう 堀知木
光ちゃん農園さん・室原(広島市)

半年ぶりの再会。岳温泉に1泊。
津島民謡教室の“休講式”。相馬の民謡にとっ
ぷりと浸れた一夜でした。

遙か彼方は浪江の空かよー
浪江恋しやなつかしや...
先生の替え歌には、全員が涙、涙で心が洗われ
ました。ふるさとに戻れるその日まで、心の絆をしっ
かり結んで、またがんばります。
皆さん、どうもありがとう。

大内ハマ子さん・羽附(福島市)

皆さまからのメッセージ お待ちしております。

はがきなどに①メッセージ(100字以内)②氏
名(本名を載せたくない方はその旨と、ペンネー
ムなどを併せて記入。)③年齢④浪江町の住所
⑤避難先住所を明記の上、郵送してください。

郵送先

〒964-0904

二本松市郭内一丁目196-1(福島県男女共生センター内)
浪江町役場二本松事務所「広報なみえメッセージ係」
※お寄せいただいたメッセージは、必ず紹介されるわ
けではありません。

☎ 行政運営班 ☎ 0243-62-0123

連絡先一覧

■浪江町役場二本松事務所

〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目196-1
(福島県男女共生センター内)
☎ 0243-62-0123 ☎ 0243-22-4261

■福島出張所

〒960-8601
福島県福島市五老内町3番1号
(福島市役所9階西側)
☎ 024-535-0750 ☎ 024-535-0753

■本宮出張所

〒969-1203
福島県本宮市白岩字堤崎494番地22
(本宮市役所白沢総合支所1階)
☎ 0243-44-1185・1186
☎ 0243-44-1187

■桑折出張所

〒969-1611
福島県伊達郡桑折町字東大隅18番地
(桑折町役場2階)
☎ 024-582-2130 ☎ 024-582-2135

■浪江町役場第二事務所

〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目81
☎ 0243-23-7970

●浪江町教育委員会

☎ 0243-62-0301

●二本松避難者支援班

☎ 0243-62-0302

■浪江町議会事務局

〒964-0917
福島県二本松市本町一丁目60-2
(安達地方広域行政組合事務センター3階)
☎ 0243-22-9531
☎ 0243-22-9532

■浪江町社会福祉協議会

〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目81
(浪江町役場二本松第二事務所内)
☎ 0243-62-0877
☎ 0243-23-7970

